

平成 22 年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【9月募集】入学試験問題

講 座	人間行動論
専門科目 1	心理学

問題 1，問題 2，問題 3 のうちから 2 問を選択し、それぞれ別の解答用紙を用いて解答しなさい。なお解答スペースの一行目には、解答した問題の番号を記すこと。

講 座	人間行動論
専門科目 1	心理学

問 1

数年以上前の過去の出来事が現在の行動に与える影響については

- (1) 過去に起こった客観的な事実が直接影響を与える
- (2) 過去に起こった事実のうち、当人が記憶している事象が影響を与える
- (3) 過去に起こった事実についての、当人の主観的評価が影響を与える
- (4) 当人が過去に起こった事実の一部をつなぎ合わせて、どのような物語を創っているのかが影響を与える

というように異なった可能性が考えられる（上記 4 点はあくまで例示である）。

これらの違いについて、あなたの知っている心理学の理論や主張を挙げ、あなた自身の意見を述べなさい。

平成 22 年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【9月募集】入学試験問題

講 座	人間行動論
専門科目 1	心理学

問 2

認知的不協和理論について、日常生活での該当例を挙げてください。次に、実際の研究例について説明してください。さらに、あなたの関心ある現象を取り上げて、この理論に関わる研究計画を立て、文章や図表で示してください。

平成 22 年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【9月募集】入学試験問題

講 座	人間行動論
専門科目 1	心理学

問 3

一般的に、60 歳以上の実験参加者を対象に過去の体験を想起してもらくと、20 歳前後の体験の想起量が最も多くなることが知られている。これはレミニセンス・バンプと呼ばれる現象である。レミニセンス・バンプが生起する理由について、複数の観点から簡潔に説明しなさい。